

編集後記

第29巻1号をお届けします。今任稔彦先生より編集委員長を引き継いで、最初のJFIA誌になります。皆様のご協力を得て本紙をさらに充実・発展させていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

巻頭言には新旧交代に伴うご挨拶を今任新委員長、酒井忠雄前委員長、新編集委員長（長岡 勉）の3件掲載しました。酒井先生には長い間JAFIAの委員長を勤めていただき、本当にありがとうございました。今任先生はこれからよろしく願いいたします。巻頭言として、さらにタイ・チュラルンコン大学のO. Chailapakul先生に紙ベースのマイクロ流体デバイスについて、寄稿いただきました。濾紙のような紙を利用したデバイスの作製と現在の研究開発状況をコンサイズにまとめていただきました。

今回は編集委員長の交代ということもあったのか、研究論文の集まりがよくなく、4報と少し寂しい結果になりました。ただ、日本と海外との共同研究の成果も含まれており、欧文での発表が3報となりました。今後皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています。その代わりと言っては申し訳ありませんが、私たちのグループより細菌の電気化学的固定化技術についてミニレビューという形で掲載させていただきました。

トピックスは（株）小川商会の樋口慶郎さんに引き続き、原稿の依頼、とりまとめをお願いしています。今回は2つの原稿をいただきました。山形大学の水口仁志先生からは紙ベースのグルコース FIA 電気化学デバイスについて解説していただきました。2報目は名古屋工業大学大学院 D3 の平野友彦さんからいただきました。モノリス HPLC カラムの新規調整法について、特に低分子量物質の分離に成果を上げつ

つある新しい方法について紹介していただきました。

愛知工業大の手嶋紀雄先生からは G. D. Christian 教授のミニシンポジウムと FIA 講演会に関する報告をいただきました。二日にわたる講演会の様子を写真を交えて丁寧にご説明いただきました。

タイトルサービスとして、徳島大学の田中秀治先生に代わり、同大の竹内政樹先生に学会情報をお願いしました。また、FIA Bibliography は神奈川工科大の飯田泰広先生に引き続きお願いしています。多くの論文を集めていただき、お礼申し上げます。

最後になりましたが、5月18日、鹿児島市において本年度第一回目の編集委員会を開催しました。分析化学会の討論会前日のお忙しい中、13名の方にお集まりいただきました。今回は新体制になって初めてと言うことで、主に、今後の編集方針を議題としました。編集委員会のメンバーも若い方が増えており、今後の企画にもこれらの方々のご意見を取り入れ、より魅力的な JFIA 誌にしたいと考えています。

以上、会員の皆様には FIA 研究の発展に JFIA 誌をさらに積極的にご活用いただくと共に、編集委員会にも是非ご要望をお寄せいただき、紙面の充実にご協力いただければ幸いです。

JFIA 編集委員長 長岡 勉